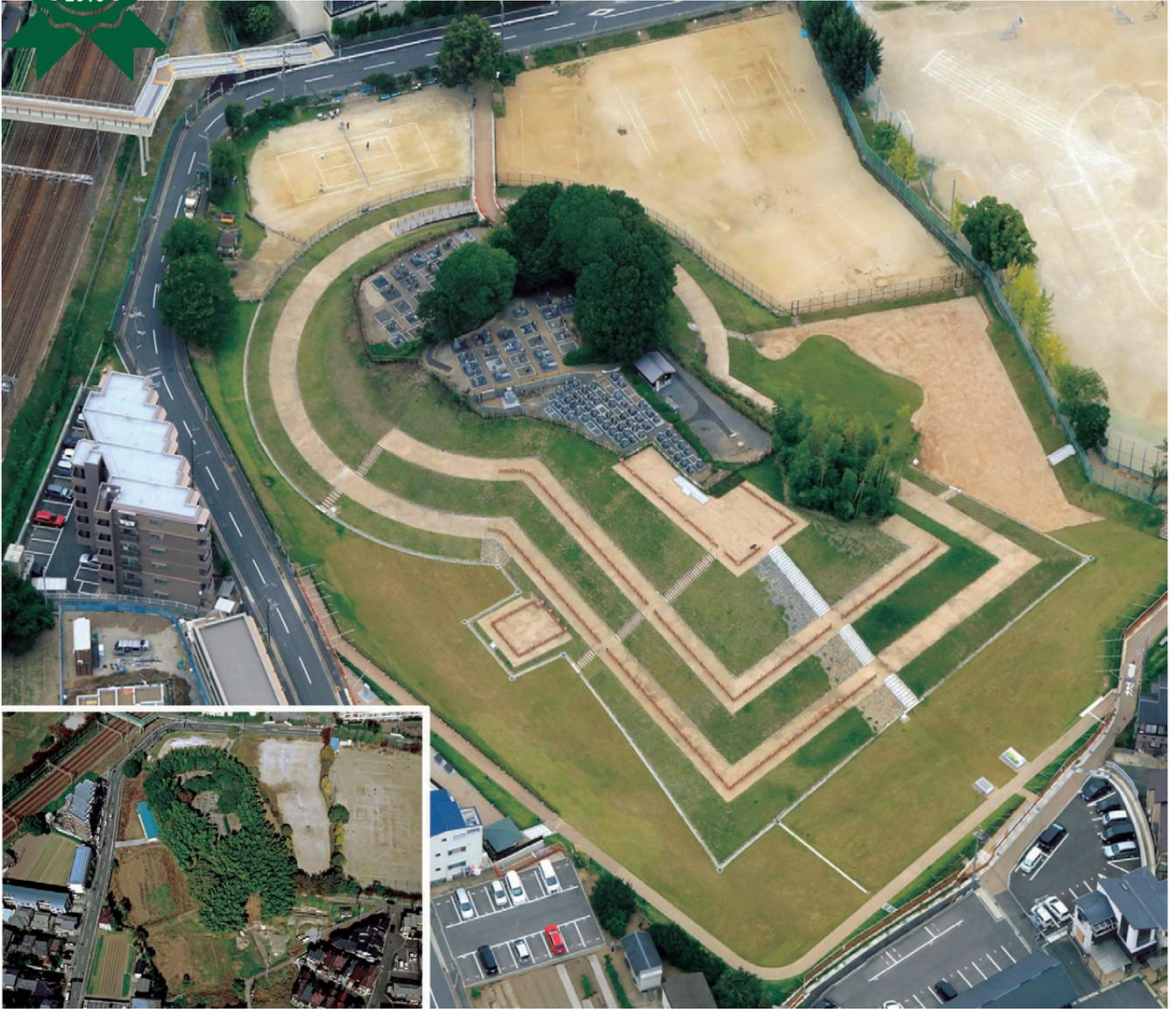




優 秀 賞

設計部門



整備前と完成後の古墳全景航空写真 **

** 長岡京市所蔵写真

恵解山古墳公園

キタイ設計株式会社

坪倉淳・黒崎道雄・上松昌寛・鳥居彩子・萩原孝司

史跡恵解山古墳は、古墳時代中期（今から約 1600 年前）に築造された全長 128 m の乙訓地域最大の古墳（前方後円墳）である。被葬者は不明だが、全国的に見ても非常に珍しい刀剣などの鉄製武器約 700 点を納めた副葬品埋納施設も発見され、乙訓全域を支配した実力者の墓と考えられる。昭和 56 年 10 月に国史跡に指定され、その後の発掘調査などをもとに、古墳形状や特徴ある造り出しなど、築造当時の形状を保存し整備するための実施設計・監理を行った。

歴史とみどり 人が集う恵解山

古墳の復元整備方針は、「国史跡恵解山古墳保存・整備委員会」

（学識経験者・地元自治会・市民公募委員などで構成）で検討・決定した。委員会においては、整備イメージを共有し、方針決定を円滑にするため、実物大の見本、現地での試験施工の状況など、実際に目で見て確認できるような工夫・説明を行うことで、多様なステークホルダーの意向を取り入れた整備計画案としてとりまとめた。

保存整備の内容は、遺構を保護するため遺構面から 70cm の覆土復元を行う一般的な整備であるが、既存樹木・竹林の保存、土の園路や芝生の周濠、古墳形状を保護するためのコグマザサの斜面部とジオファイバ工法の採用など、土木構造物の露出を最小限に抑えた。また、斜面部の一部には発掘された石を利用した葺石、本物に近い質感を重視した陶器製の埴輪を約 650 本配置するなど、忠実に遺構を復元した。

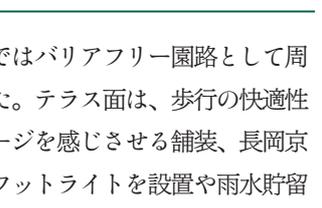
作品概要

作品名	恵解山古墳公園
所在地	京都府長岡京市勝竜寺・久貝2丁目
発注	長岡京市建設交通部公園緑地課 長岡京市教育委員会教育部生涯学習課
設計	キタイ設計株式会社
監理	キタイ設計株式会社
施工	鴻池・山品特定建設工事共同企業体、有限会社永原造園、 有限会社丁花園、有限会社植幸田中造園、有限会社 福島晴芳園、有限会社五島電気、橋井電気商会
製作	有限会社プロジェクト岡見(模型、サイン)、 岩尾磁器工業株式会社(埴輪)
設計期間	平成23年8月～平成26年3月
施工期間	平成24年9月～平成26年10月
規模	約1.3ha
主要施設	史跡古墳公園、サイン・模型、照明設備、休養施設

作品評

この作品は、国指定の史跡に指定された古墳について、古墳形状の復元と既往植生の整理、そして史跡公園としての活用について解決した事例である。歴史・文化財に関する学識経験者を中心とした委員会、地域住民とのワークショップ、隣接する小学校や中学校との協働などの多様なステークホルダーの意向をまとめた成果となっている。細部のディテールに関してまで委員会との調整を重ね、そのためのプレゼンテーションにも多大な努力が認められる。

設計内容は、古墳の覆土による形状保全を中心に、散策園路とサインといった標準的なものだが、それぞれに時代考証や表現方法に工夫が凝らされている。また、現況植生の一部保全については、委員会も含めた十分な検討が加えられ良質な景観となっている。本作品は、多くの関係者の意見をまとめながら良好な成果へと導いた幅広い技術力とコンサルティング能力が高く評価され、優秀賞となった。



- ①青空を背景に竹林とクスノキ、斜面部のコグマザサの緑が一体的に栄える前方部 ②近隣住宅地にはなかった広い芝生広場と園路は散歩や子どもたちの遊び場として利用されている ③恵解山古墳の特徴のひとつである西造り出し ④地元ボランティアガイドの勉強会 ⑤発掘調査で出土した実際の石を使用して葺石を復元、葺石とコグマザサが将来自然に重なるように配置 ⑥整備方針図 ⑦古墳内の竹林で小学生による地域特産のタケノコ掘り学習 ⑧本物の質感、形状を重視した陶器製の埴輪は一本一本ハケ目を施し、約650本公園内に設置 ⑨乙訓地域にある古墳の位置を示した地形模型 ⑩GRC製の古墳復元模型 ⑪開園を祝う小学生の演舞

園路は、墳丘の一定の高さまではバリアフリー園路として周遊できるようにスロープを設けた。テラス面は、歩行の快適性を確保しながら往時の土のイメージを感じさせる舗装、長岡京市特産の竹の色をイメージしたフットライトを設置や雨水貯留機能を持たした周濠等、公園利用者の安全性確保、古墳景観保全と地域との調和を図り、地域の人たちが親しみ憩える空間の形成を心がけた。

みどりゆたかな恵解山

史跡指定区域内(約1.9ha)には学校用地(周濠部)、地元の墓地(墳頂部)といった土地の制約がある中、公園としての整備だけでなく、史跡としての形状復元、既存竹林の保全、完成後のボランティアガイドの活用を見据えた整備等の両立が求められた。特に墳丘全体が手入れの不十分な竹林と雑木で覆わ

れており、大半の樹木を伐採する必要があった。隣接する長岡京市第八小学校の校歌に「みどりゆたかな恵解山」と表現されている点も考慮し、西側(道路)からは古墳の形状復元を重視しつつ、東側からは緑の景観を重視して、既存のクスノキを保全し、竹林は管理の一環として子どもたちのタケノコ掘りがしやすい保存整備を提案し、地域の歴史学習やイベントのフィールドとしても活用できる施設計画を行った。

古代のロマンと地域の共存を目指して

平成26年10月、恵解山古墳公園として開園した。

開園後も、イベント時には市内外から多くの来訪者で賑わいを見せており、「歴史・文化をつなぐ市南部の新しい拠点」としての貢献が期待される。